

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 治療編1 033：なんて地味な闘いなんだ。

2017年4月27日（木）抗がん剤点滴から2日目
（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療4/39回目）

今日も昨日と同じ点滴のメニューです。

さて、昨晚の出来事です。トキは、しゃっくりが30分経っても止まらないので、看護師を呼びました。

看護師曰く、抗がん剤の副作用で、出たり止まったり、数日、続くとのことでした。
看護師がくれた、しゃっくり止めの薬を飲みましたが、2時間経っても止まりません。

トキは、よくある止め方をやってみました。息を止める程度では止まりません。

そこで、息を止めて、腹筋に思いっきり力を入れ60秒数えました・・・止まりました。
これが一晩中、出たり止まったり、その都度、目覚めて、息を止めて・・・

トキは思いました。『なんて地味な闘いなんだ』

因みに微熱が出ます。便秘にもなります。しかし、それらは大した問題ではありません。

地味ですが問題は、『しゃっくり』なのです。

そして、朝。
相変わらず、しゃっくりが出ます。

さらに、トキの味覚に異変が・・・



『味が猛烈に薄い、ご飯のにおいが嫌だ、吐きそう』…

夕食はトキの好きな『おきゅうと』が出たのに、もう全く持って、箸が進みません。

そこで、トキはU先生に相談しました。するとU先生は、

「コンビニで買っても構いませんから、食べられそうなものを頑張って食べてください。

痩せたら治療がストップしちゃうんで、もし、難しい時は鼻からチューブで入れますけど…」

「それはちょっと…」

「ですよね…」

トキと、U先生はテンポ良く歯切れの悪い会話をしました。

四人部屋の場合、うち一人程度、鼻からチューブを入れている人がいます。

諸々の理由で、口からご飯を食べられない状態の場合、チューブを鼻から入れて食道を通し、胃に直接、栄養分を送るのです。点滴の注射針と同じで 24 時間、寝る時に入れっぱなしです。きっと、物凄い違和感でしょう。

トキは思いました。『チューブは腕だけで充分だ』

**2017年4月28日（金）抗がん剤点滴から3日目
（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療5/39回目）**

点滴終了です。様子を見て、昼には点滴用のチューブも外せます。トキは、薄まりゆく味覚、しゃっくり、食欲不振、大量のおしっこ、吐き気、吐き気を誘う薬と地味に闘っています。

さて、トキは朝食時に奥のおじさんを見て、

今更、重要なことに気がきました。『えっ！パン、パンがあるのか！』

トキは、こんな当たり前のことに、今まで気が付きませんでした。早速、トキは看護師を呼んで尋ねました。

「ご飯をパンに変えられるんですか？」

「ええ、ロールパンと食パンとメロンパンと・・・クロワッサンもあります」

トキは思いました。『何てこった、クロワッサンまであるのか！早く言ってくれよ！』

来週月曜日の朝から、パンに変更してもらえるようお願いをしました。

もともと説明がなかったのか、あったが、トキが聞き忘れたのか。いずれにしても、この困難な治療を乗り越える為には、単に耐えるだけではなく、出来るだけ楽に効率よく行える環境を作ることも大切です。病院や先生任せだけではなく、トキ自身が考えて行動することが、より良い結果につながる。

トキは、そんな風にカッコよく考える余裕が、まだ、ありました。



今日の夕飯は、まだ、ご飯です。においも味も変です。噛む力も飲み込む力も低下しています、食欲もありません。

それでも、トキは、ご飯にお茶をかけて無理やり胃に流し込みました。

因みに、トキは下戸であり、元々、お酒を飲む習慣もなかったため、この度の『禁酒』は全く問題ないのですが、タバコは1日に5～10本程度、吸っていたため、『禁煙』には、それなりの我慢が必要でした。勿論、甲状腺がんの疑いが始まった2か月前から、『吸っている場合じゃない』と控えています、部位が喉ということもあり、その原因のひとつと言われるタバコを今さら吸うことは『死にたいならどうぞ』という勢いでしょう。

そもそも、現在のトキは『タバコを吸いたい』と思う気分と体調では全く持ってありませんでした。

⇒ 034 : 『食わんと死ぬ！食わんと死ぬ！』